

2022～2024 年度 第 1 回 神奈川県産業教育審議会 審議概要
令和 5 年 3 月 23 日（木） 10:00～12:00 かながわ県民センター15 階 1503 会議室

【出席者】◎角田 浩子、○杉山 久仁子、上谷 公志郎、村木 薫、佐藤 均、松本 里香、
金井 徳兼、牧 紀子、高橋 麻実、吉田 圭、北井 淳一、岩崎 秀太、
片受 健一、石川 隆一

1 事務連絡（事務局）

- ◇資料確認
- ◇定数確認
- ◇会議の公開について

2 神奈川県教育委員会あいさつ（濱田指導部長）

- ・神奈川県産業教育審議会は、産業教育の推進に大きく貢献している。
- ・平成 28 年 1 月には、県立高校改革実施計画Ⅰ期が発表され、現在すべての県立高校で改革に取り組んでいる。
- ・今後の高校改革を見据えて、御意見をいただきたい。

3 委員紹介（増田高校教育課長）

4 会長選出（事務局）

（互選により角田委員が会長に、杉山委員が副会長に選出された）

会長あいさつ（角田会長）

- ・前回の審議会では、最終報告において、特に看護科、福祉科に対し、具体の方向性を示し、令和 4 年 10 月に発表された「県立高校改革実施計画Ⅲ期」に反映されている。デュアルシステムについても県として、教育課程に位置付けて実施している。
- ・活発な御議論をお願いしたい。

副会長あいさつ（杉山副会長）

- ・産業教育について、お役に立てていないかと思いますが、よろしくをお願いしたい。

5 審議依頼及び説明（濱田指導部長）

（審議事項）

「地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成のあり方について」

～専門学科におけるデジタル社会の実現に向けた人材の育成～

- （1） 地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成のあり方
- （2） 専門学科におけるデジタル社会実現に向けた人材育成のあり方

（理由）

- ・令和 4 年度入学生から年次進行で実施されている学習指導要領においては、地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域産業を担う人材の育成が求められて

いることから、本県の産業や地域の特性を踏まえた人材育成のあり方について、審議をお願いする。

- ・また、近年の技術革新により、AIやビッグデータ、IoT等の先端技術が高度化し、あらゆる産業でデジタル社会実現に向けた人材育成が必要になっている。本県の産業においても、地域社会で求められるデジタル人材育成等、最先端の技術に対応でき、地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成が急務になっている。すべての専門学科で共通して育成すべきデジタル社会の実現に向けた産業人材育成のあり方について専門的な見地から検討する必要があることから審議内容に加えた。

6 審議

(1) 審議会の進め方

(角田会長)

- ・審議会規則第6条では、「審議会は、その所掌事項に係る専門的事項を調査審議させるため、専門部会を置くことができる」とある。
- ・今、濱田指導部長から、審議会での審議依頼事項の説明があった。
- ・この審議会は、大変大きな課題をまとめなければならない。そこで、効率的に審議を進めるために、専門部会を設置し、次回の審議のために、課題を整理してもらいたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

(角田会長)

- ・専門部会の設置が認められたが、専門部会の委員は会長が指名することになっている。その委員構成について、事務局に何か(案)があるか。

(事務局)

- ・主に産業教育に携わる教育関係者を中心に、過去の審議会で設置した専門部会の構成にならい、専門部会の委員構成案を作成した。
- ・審議委員である岩崎委員と片受委員には、専門部会委員もお願いしたい。
- ・また、今回は、「デジタル社会実現に向けた人材育成のあり方」について審議していただくことから、農業科の岩崎校長、工業科の片受校長の他に、商業科の校長である河合校長にもお願いしたいと考えている。
- ・審議会委員と同様に専門部会でも中学校の立場からご意見をいただきたく、神奈川県公立中学校校長を1名と考えている。
- ・つぎに、産業人材育成のあり方について審議していただくことから、行政関係として産業人材養成事務所等所管課から1名と考えており、県立の上級学校である産業技術短期大学から1名と考えている。
- ・さらに、「すべての専門学科」におけるデジタル社会実現に向けた人材の育成のあり方について審議していただくことから、行政関係として、政策局のち・未来戦略本部室から1名、他に関連する部・課から1名と考えている。
- ・また、農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉・総合産業科すべての学科から、総括教諭又は教諭をそれぞれ1名任命する方向で考え考えている。
- ・御意見をお願いします。

(角田会長)

- ・ただいまの事務局案を参考にして、専門部会の委員を指名したいと思う。具体的な人選については、事務局と相談の上、行いたいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

- ・では、そのように進めさせていただく。後日、専門部会名簿を事務局から委員の皆様へ送付する。
- ・次に、「審議スケジュール(案)」について審議する。説明をお願いします。

(事務局)

- ・本審議会は、2022～2024年度の中で計5回で、「地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成のあり方について」～専門学科におけるデジタル社会の実現に向けた人材の育成～について、御審議いただきたいと考えている。
- ・審議題の内容として、「Ⅰ 地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成のあり方」、「Ⅱ 専門学科におけるデジタル社会の実現に向けた人材育成のあり方」を用意させていただいたが、それぞれの項目ごとに御審議いただき、今年の11月に「中間まとめ」の審議をお願いし、その後、更に議論を重ねていただき、2024年7月には、「最終報告」の審議をお願いしたいと考えている。
- ・なお、専門部会は、2023・2024年度で計6回開催する予定としている。専門部会は、審議会開催後に開催し、各回の審議会の審議内容を踏まえ、次回の審議会に向けた調査研究・資料作成や中間まとめ案・最終報告案の作成をする。
- ・御意見ををお願いします。

(片受校長)

- ・前回の報告をもとに、二俣川看護福祉高校が県立高校改革実施計画第Ⅲ期に入ったが、今回の報告は第Ⅲ期に入るのか。

(濱田指導部長)

- ・Ⅲ期が公表されているが、一部改訂で入れるかは決まっていない。
- ・改革まで至るのか。至らないのか。ご審議により、その扱いは検討したい。現時点では明確にこうするという事はない。

(角田会長)

- ・新しい高校を作りましょうということでも、必要だということなら進めていくのか。カリキュラムの検討等、色々な意見の中であった場合も検討していただけるのか。

(濱田指導部長)

- ・検討します。

(角田会長)

- ・前回、審議会の開催を増やした。

(濱田指導部長)

- ・実際に学校見学を行う機会を作った。

(角田会長)

- ・高校の視察を入れてはどうか。委員の御発表、プレゼンもありなのでないか。
- ・スケジュールを変えろということではないが、様々な展開を検討してはどうか。

(事務局)

- ・検討する。

(その他、意見等 特になし)

(角田会長)

- ・審議スケジュールについては、資料のとおりとする。

(2) 自己紹介

(角田会長)

- ・これより内容の審議に入る。説明していただいた、論点を踏まえて、審議を行う。
- ・本日は1回目の会議なので、自己紹介も兼ねて、委員それぞれの立場から、「専門高校のイメージ」「求められている人材」などについて、お考えや御意見をお話いただきたい。
- ・また、先ほど事務局から説明のあった、「審議の論点」に対して、御質問や御意見などあれば、併せてお願いしたい。

(村木委員)

- ・タクシー会社を経営しており、神奈川県中小企業経営者協会理事を務めている。勉強させていただきたい。

(佐藤委員)

- ・日本労働組合総連合会神奈川県連合会の執行委員を務めている。働く側に立って、県の教職員組合の役員だった経験から、お話しできればと考えている。子どもたちにとって、子どもたちがどう学んでいくか、という視点を重視していきたい。また、そういった仕組みを作っていくたい。

(松本委員)

- ・東京工芸大学工学部で、化学・材料の研究をしている。工業が専門。工業高校は、日本にとって重要な立ち位置であると考えている。現在、工業高校の倍率が低いことを懸念している。

(金井委員)

- ・神奈川工科大学創造工学部教授を務めている。学生のキャリア教育や、学校運営委員、学生・若年者等の大会に参加しているが神奈川県の学生の参加が少ない。
- ・発信できる仕組み、先生方が高校時代にコンテストにでていないことも課題であるとする。今後とも検討していきたい。

(牧委員)

- ・工学部の情報系の学科（湘南工科大学工学部コンピュータ応用学科）で教えている。情報系の人気がある。情報学部、デジタル人材の志願者、工業高校生受験について、高校側も認識が低い。大学生もそうだが、漠然と情報が必要であるとする。
- ・もう少し視点を産業につなげていければ良いとする。

(高橋委員)

- ・製造業の高校生と大学生の採用に関わっている。最近、社会貢献度の意識が高い方が多い。
- ・広く浅く学ぶというよりも、専門性、自分の興味を突き詰めたい思いが多い。
- ・取説が無くても使える。そんな生徒が専門性を突き詰められれば良いとする。そういう機会を作っていくことができるように審議会で話し合っただけであればとする。

(吉田委員)

- ・(一社)スマートニッチ応援団の代表理事を務めている。
- ・「スマートニッチ」は財務省の商標となっている。中小企業の支援を行っている。
- ・最近感じていること、企業側と子どもの情報格差が大きくなっている。
- ・幸福論のとらえ方が、企業と子どもたちで変わってきている。大人は外に出よう、成長しようとして。一方、子どもはみんながどうやったら幸福になれるかを考えている。
- ・産業教育の重要性を企業の方にも知っていただきたい。

(北井委員)

- ・公立中学校校長会の副会長という立場で参加しているが、本来ならば会長のはずだが、私の専門が技術家庭科ということで、参加させていただいた。
- ・松本委員からもあったが、専門高校の倍率が上がってこないことを、危惧している。半分以上は中学校にも責任がある。中学校側でもキャリア教育で取り組む必要あると考えている。

(岩崎委員)

- ・吉田島高校の説明。家庭科と農業科の併置校。県立で唯一の家庭科設置。県内唯一の林業人材育成。
- ・人材育成のあり方、常に課題意識を持ちながら取り組んでいる。
- ・家庭科は、ほとんどの教員が、共通教科の家庭科担当。本校は専門の家庭科を教える学科である。どの様に専門教育を行っていけばよいか、地域社会や外部人材を活用しながら、常に考えている。
- ・根本的に家庭科どうするか。デジタル社会で農業にどう生かしていくか。学校の方向性を見だし、高校としての発信をしていく。

(片受委員)

- ・第Ⅲ期の改革では、工業が無くなるのではないかと危惧していた。工業高校の魅力的な取組が中学生と保護者に伝わっていないと感じる。成果が見えてこない。しっかり見せて、つながりを作っていきたい。
- ・すべての高校でデジタル教育に取り組んでいく必要がある。
- ・本校は唯一定員割れをしていない工業高校。IBM、富士通総研、横浜銀行、ソフトバンク等の企業及び県産業技術短期大学校とデジタル人材育成の P-TECH に取り組んでいる。学校見学の件があったが、是非うちの P-TECH の取り組みを見に来てほしい。

(石川委員)

- ・教育センター所長。小中高すべてのことを所管している。
- ・横浜には 140 以上の中学校がある。専門学科を設置している学校もある。
- ・中高一貫、小中一貫の学校間の連携を大切にしている。
- ・自分の父の兄弟、県の工業商業の出身者である。

(杉山副会長)

- ・横浜国立大学教育学部教授を務めている。技術家庭科の家庭が専門。学習指導要領の改訂にも携わった。技術家庭科の課題は教員の人材不足である。
- ・教員養成の立場から考えると、デジタル化は教員側がそれに対応できていない。一人1台端末は小中学校は対応したが、高校はまだ。その必要あるの?という先生もいる。

- ・小中学校はいやおうなしに動いている。高校では、色々あるのではないか。
- ・これから何が必要か。高校の段階で、何を身に付けるのか。基本的な学習もしなければいけない中で、どんどん増えている。なにをやるかを考える必要がある。
- ・すべての学校で共通化は難しいが、産業系高校では一段違う共通レベルを持つてくる必要がある。
- ・前審議会からアピールをどうするかが課題であった。進路を決めているのは本人ではなく、保護者であったり、進路指導の先生だったり・・・どうアピールするのが重要。
- ・例えば、数学の勉強をして、それが何につながるのか子どもたちがわからない。だから面白くない。
- ・今回未知の部や分新しい部分がある。何をするのが見えてくると意欲をもって主体的にできるようになるのではないか。
- ・小学校では、箱で動物をつくって、パソコンに取り組んでその中で動かす。これから高校に入ってくる生徒は、プログラミングをやってきているので、高校へ入学してくる生徒の学んでくる内容も変わってくるので、その対応も必要である。

(角田会長)

- ・高校現場を取材して発信してきた。(株)リクルート「キャリアガイダンス」を発行している。是非、お読みいただければ。
- ・デジタル化人材の育成については、近々の課題である。今回の審議会についても2年間休止あり得ないと思う。オンラインでもできた。もっとスピード感をもって取り組むべきである。
- ・専門高校は社会に一番近い学校。
- ・専門教育の具体的な姿について話し合えたら良い。
- ・デジタル人材とは何か？から共有ししていきたい。ただPCを動かす人だけではなく、そういった人材をどう育成するのかを考える必要がある。

(3) 審議の論点

(事務局)

- ・まず、神奈川県の特設専門高校における現状について、簡単に概要を御説明する。
- ・はじめに、県立専門高校の設置状況は、専門高校は27校あり、その内訳は農業が5校、工業9校、商業5校、水産1校、看護1校、家庭1校、福祉3校、国際関係1校、その他の専門学校が5校となっている。
- ・県立高校改革実施計画I期(平成28年度～令和元年度)における専門学科の改編は、農業に関する学科は、吉田島総合高校の総合学科が農業科に改編し、校名も吉田島高校になった。また、平塚農業高校初声分校は定時制農業科から全日制農業科に改編し、校名も三浦初声高校になった。
- ・家庭に関する学科として、吉田島総合高校の総合学科を改編し、新たに家庭に関する学科が設置され、同じく校名は吉田島高校になった。体育、音楽に関する学科、美術と国際に関する学科については資料の通り。
- ・また、専門学科高校の再編統合は、平塚農業高校と平塚商業高校が再編統合し、農業科と商業科を併置した平塚農商高校に、三浦臨海高校と平塚農業高校初声分校が再編統合し、普通

- 科と農業科を併置した三浦初声高校となった。その他の専門高校の再編統合は資料の通り。
- ・続いて、県立高校改革実施計画Ⅱ期（令和2～5年度）における専門学科の改編は、工業に関する学科は、横須賀工業高校が機械科、電気科、化学科に加え、新たに建設科が設置された。
 - ・水産に関する学科として、海洋科学高校の海洋科学科が船舶運航科、水産食品科、無線技術科、資源環境科の4学科となり、さらに、単位制の水産科から学年制の水産科に改編された。その他の専門学科として、神奈川総合高校の学科改編については資料の通り。
 - ・また、専門学科高校の再編統合は、厚木東高校と厚木商業高校が再編統合し、普通科と商業科を併置した専門高校に再編統合する。
 - ・続いて、県立高校改革実施計画Ⅲ期（令和6～9年度）における専門学科の改編は、看護に関する学科は、二俣川看護福祉高校の看護科が普通科に改編される。
 - ・また、専門学科高校の再編統合では、小田原城北工業高校と大井高校が再編統合し、普通科と工業科を併置した専門高校に再編統合する。
 - ・定時制課程の学科改編は、神奈川工業高校の学年制工業科を単位制工業科に改編し、加えて新たに単位制普通科を設置する。
 - ・次に、生徒数の状況は、県内公立学校の割合では11.2%であり、全国の状況に比べて本県の専門高校の生徒数の割合は低くなっている。
 - ・次に、入学者選抜の状況は、学校・学科ごと、また年度ごとに差はあるが、専門学科全体を公立高校全体と比較した場合には、本県の専門高校の競争率は低くなっている。
 - ・次に、高等学校卒業後の進路状況は、大学・短大・専門学校等を合わせた進学が5割強、就職が4割弱で、全国の状況と比べると就職の割合が若干低くなっている。
 - ・続いて、審議の論点について御説明する。
 - ・まず、「Ⅰ 地域や社会の持続的な発展を担う産業人材育成のあり方」においては、急激な少子高齢化が進む中で、一人ひとりが持続可能な社会の担い手として活躍できる人材育成をするためにはどのような手立てが考えられるか。また、地域や社会の持続的な発展を担う職業人を育成する上で必要となる各教科内容等の改善に向けた方策はどのようなことが考えられるか。さらに、専門高校の社会からのニーズを把握し、どのような取組や教育内容が考えられるか御審議をいただきたいと考えている。
 - ・次に、「Ⅱ 専門学科におけるデジタル社会の実現に向けた人材育成のあり方」においては、近年の技術革新の進展により、AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化しているが、どのような課題があり、その上でどのようなデジタル人材が必要とされているのか。また、地域社会で求められるデジタル人材育成に際し、どのような資質・能力が求められ、高校段階において、どのような教育が必要であるか。最先端の産業人材育成のため、企業や上級学校などと、どのような連携が考えられるか、御審議をいただきたいと考えている。

(4) 審議 (角田会長)

- ・これより内容の審議に入る。説明していただいた論点を踏まえて、審議を行う。事務局から

説明のあった「審議の論点」について、御質問などあればお願いします。

(吉田委員)

- ・ 2つ議題があるので、どのように審議されるのか。まずは、デジタル人材、ピントを絞るべき。データサイエンティスト、ジャバとパイソンの違いや保守も大切である。

(角田会長)

- ・ 二つの議題はどのように話し合われていくのか。並列したものにするのか。

(濱田指導部長)

- ・ 審議の進め方は皆様できめていただく。
- ・ 1の産業人材育成から2のデジタル人材は切り離すことができない。
- ・ 産業界で色々な人材が不足しているが、デジタル分野でも不足が言われているので、そういった視点でお願いしたい。

(角田会長)

- ・ まずは1について、そして、2のデジタル人材に特化して進めていく。
- ・ 全体で進めていく。後は分科会で進めていく方法もある。

(吉田委員)

- ・ 1は、地域社会で必要なもの。
- ・ 2は、個人としてスキルセットとして何が必要か。
- ・ 社会で必要なものと、個人で必要なもので分離されるのではないか。
- ・ 高校のデジタル人材は必要か？現在は必要。費用が低いから、ベトナムに流れてしまっている。大人側の意識を変える必要がある。
- ・ 安い労働力として叩かれてしまうなら、大学等に進学した方が良いよね。となってしまう。

(片受委員)

- ・ 専門高校への応募入学希望者が減っている。
- ・ 研究職、技術職、技能職として分類すると。保護者は、工業は技能職で3Kだと思っている。これを払しょくする必要がある。
- ・ 生涯賃金を説明し。高校卒業でできること、大学へ進学しないとできないこと、しっかり考えさせる進路指導をしている。

(佐藤委員)

- ・ 家庭環境も含めて格差が大きい。高校に入った時点でプログラム作成ができる生徒がいる反面、家にはICT環境のない生徒もいる。
- ・ 最低限の技術をどう身に付けさせることができるのかが課題。
- ・ 専門高校の置かれている状況、生徒の状況を土台にして議論を進めていかなければならない。

(岩崎委員)

- ・ 専門高校の生徒数も少ない、格差も大きい。何を変えたら良くなるのかが難しい。「こういった人材を育成する。」というのを発信する必要がある。
- ・ 求められる産業人材も学校学科によってちがう。簡単な様でむずかしい。

(金井委員)

- ・ 産業人材の前に、社会人とはなにかを、高校でしっかり学ぶ必要がある。
- ・ 大学でも対人関係やコミュニケーション能力が低い傾向がある。

- ・人間教育をしっかりしつつ、産業と向き合うことが必要ではないか。

(吉田委員)

- ・大学で、学生がやりたいことがあると相談に来た。親からは就職しなさいと言われたが、学生はシェアハウスの事業をやりたがっていた。
- ・高校生も2～3年にあがるときに急激に進路を考えなければいけない。
- ・本来は1年から準備を進めるべき。大事なのは、高校3年間で社会に出る準備が足りていないこと。その準備を我々が用意していくべきである。知る機会を増やすべきである。
- ・3年以内での離職が多い。キャリアをしっかりと学ぶところが足りていない。社会からの信頼が無くなる。

(石川委員)

- ・「担い手」、「地域社会から求められる」、注意して取り扱っていかなければならない。
- ・地域から求められるとなると、主語が子どもでなくなる可能性がある。地域社会はいったい誰なのか。吟味する必要がある。

(角田会長)

- ・違和感があるというのは大事。

(吉田委員)

- ・誰のためというの、焦点を当てた方が良い。主語は子どもたち。
- ・大学生と議論していること。「この1年の目標を作ろう。次の世代に課題を残さない。未来は明るい。と大人に伝えたい。」ということ。

(角田会長)

- ・きちんと話し合うことが必要である。
- ・専門高校の置かれている生徒の立場、どのような人材に育てほしいか、議論していく。
- ・社会の担い手、社会の作り手。どう育成していくのかという視点で議論をしていきたい。
- ・社会人として、専門人として、ずっと学び続ける。生涯どんどん成長していく人材の育成をどうしていくか。

(金井委員)

- ・先の話かもしれないが、何をゴールにするのか。中身を考えるのか、方針を考えるのか。
- ・今のカリキュラムに入れるのは難しいのではないか。

(濱田指導部長)

- ・共通科目は指導要領がかなり定めている。
- ・専門科目は学校に裁量があるかたちで作られている。生徒の実情を踏まえて各学校で決めている。
- ・そこまで踏まえてここで議論するのは難しいが、どの様な力を育成するために、どの様な学びが必要なのか方針の議論をして、具体的内容は学校で考える。それぞれの専門部会で、どういったことをするのかといった議論をしてもらってもよい。

(金井委員)

- ・方針だけでは、学校によりまちまちになる。
- ・モデルプランやアクションプラン等、しっかり決めないと不親切。
- ・共通してやれるものであればそうするのが良い。専門部会で、やるとしたらどうだろうと議

論をしていただき、この領域ならこの方針で、個々の部分なら詰めていただければ各校動ける等、やり取りが必要。

(角田会長)

- ・具体的な提案をしていきたい。専門で深められると良い。

(岩崎委員)

- ・各校、入ってくる生徒が違い、生徒の様子に基づいて、内容によってはある程度の方向性でとどめるのも必要。
- ・具体があると良いが、それをもとに学校の自由度が奪われてしまうと難しい。
- ・先生方の現場の声もあるので、専門部会との兼ね合いが必要。

(片受委員)

- ・定時制では、ちょっと違う。定時制の生徒は、専門高校素晴らしい！と言ってくれている。
- ・具体的にどうしたらよいかを示して、各学校でどう落とし込んでいくか判断する。

(角田委員)

- ・この専門教育を受けさせたいとの議論いただければと思う。生徒の立場に立った議論をしていければよい。
- ・また、地域産業人材やデジタル社会の人材育成について、情報共有やご意見などがあれば、願います。
- ・本日いただいた御意見を踏まえて、専門部会で調査研究をお願いしたい。

7 事務連絡

◇今後のスケジュール